

## ● 論説文・講評（2019年）

今回のテーマは「持続可能な開発目標（SDGs）達成のために、自分ができること」でした。国連が定めた17の目標は、日本社会、特に大人の間では、残念ながら誰もが知っているという状況ではないのですが、学校、大学で授業に取り入れているところも多く、中高大生の間ではかなり知られています。今回、これまでにない数の応募と、かつそれぞれが何らかの経験に基づいた内容のある論説文が集まってきたのも、そういう理由からでしょう。ちょっと固いテーマに見えますが、内容をきちんと理解していれば、私たちが普段の生活の中でやっている「もったいない」や「無駄をなくそう」、「他人に親切に」というような身近な取り組みそのものが、SDGsの目標であることに気がきます。

優秀賞に輝いたのは、タイトルそのままの「持続可能な開発目標達成のためにできる事」。問題提起、自分の経験に基づいた事例、それに伴う考えを手順よくまとめた論説文らしい論説文でした。まず、問題提起として「現在、国際社会の抱えている問題は、星の数ほどある」と始め、「しかし、私は、学生の私達でもできることはあると考えている」と自分の問題として、論をスタートさせます。強烈な経験として2年前にニューヨークの国連本部で行った研修の体験が、「大事な転機」でした。その上で自分たちが授業で「海のプラスチックごみ問題」に取り組んでいることを紹介します。世界の環境問題の中でもプラスチックごみの問題はホットで、かつ大量生産消費国である日本にも大きな責任がある問題です。私たち自身、日々の生活でプラスチックに触れない日はない、と言ってもいいほど身近な問題です。

きちんと資料を引用しながら、世界の状況や企業、個人の取り組みを紹介したうえで、自らの取り組みとして「エコバックを持ち歩く」「ペットボトルに入った飲み物を買わない」などを行った上に、友人たちとプラスチック工場を訪ねて現状を調べたり、海の清掃活動に自ら参加して募金を行ったりするなどの積極的な経験も盛り込みました。まさに「自分にしかできない体験」ですね。説得力があります。そして「情報と知識」「行動」「周りに広める」という3つの心構えが必要であるとしたうえで、「自分はプラスチックごみ問題に取り組んでいきたい」とまとめています。すっきりした論文でした。サブタイトルをつけるとしたら、何がよかったかな。そこも考えてみてください。

奨励賞は「誰一人として～2030年に向けて」と「ほっとけない貧しさ」の2点。「誰一人」のキーワードは「フェアトレード」。お父さんが仕事で訪れたバングラデシュでの話から入るので、ぐんと引き込まれます。日本と同じアジアにある人口大国ですが、一人一人の所得は少なく、長く最貧国と言われてきた国です。日本との金銭感覚の違いや、お土産に買ってもらった「699タカ（日本円で900円）」のワンピースへの驚きが背景にあり、そこからSDGsの一つである「貧困の問題」を考えます。最初にSDGsについて明瞭に解説したのも親切でした。中にはSDGsそのものをよく知らない人もいたので、しっかりと説明する必要があります。そのうえで、ワンピースで気付いた「フェアトレード」の

重要性に触れ、「知識と行動と継続、発信」が大切だと述べます。とはいえ、それが簡単にいかないことの問題点へと続きますが、できれば「あなた自身が身の回りで何をやっているのか」、ぜひ行動者としての体験談を取り上げてほしかった。後半が知識人の講評のようになってしまったのが、物足りなく感じました。そこを補充してみてください。

「ほっとけない貧しさ」も、身近な存在であるチョコレートに秘められた「フェアトレード」がキーワード。書き出しは論説文らしからぬ、「モヤモヤした気持ち」の謎解きから始まります。これはこれで読者をぐんぐんと引き込む手法として、あり、でしょう。「モヤモヤ」の正体はテレビ番組で見つけた「ガーナでの児童労働」の実態。自分よりもさらに小さな子供が、学校に行くこともなく、カカオの収穫で働かされているというルポです。「学校に行きたいなあ」という彼の話聞いて、筆者は「悔しくなりました」。SDGs に関していろんな国のことを調べるうちに、いかに日本と違うかに気付くことも大きな実りです。筆者はいろいろと調べる中で、日本で売られているチョコレートの中には「フェアトレードチョコ」があることを知ります。ちょっと高めの値段ですが、それを買うことで、貧しさの解消につながるのだと。もちろん、自分で食べたでしょうが、さらに何らかの積極的な行動に移っていれば、より説得力のある論文になっていたでしょうね。行動から生まれた経験は、説得力があります。

「これからもモヤモヤを大事にしていこう」というまとめもよかった。現代の日本は一見、平和で豊かで、世界平均的に見れば、非常に恵まれた生活環境の中で私たちは暮らしていると言っていいでしょう。しかし、世界には「日本では当然のことがそうでない」ケースもたくさんあります。世界の共通目標である「SDGs」を知ることによって、その「違い」に気付いてください。そこに「モヤモヤ」の原点があるかもしれません。

もちろん、日本の国内にだってあります。たぶん、みなさんが気付いていないだけの身近なところにもいろんな違いが。いろんな発見をし、そこで驚き、怒り、悲しみ、喜ぶところに、論説のネタは眠っています。眠っているネタを探してみてください。

(毎日新聞編集委員・森忠彦)